

フランス、イギリスの旅

浜本 雅之

1. 旅の始まり

平成30年9月上旬、広島市の「コミュニティ・アカデミー上幟」というカルチャー講座で教えて頂いた原野昇先生が企画された7日間のフランスツアー（添乗員さんを含め一行14名）に参加しました。またこの機会を利用して、ツアー後、イギリス、フランスを半月にわたり一人旅しました。

2. フランス

フランス旅行の趣旨は古代、中世、近代、現代のフランスを通覧するというものです。実際の行程は異なりますが、時系列順に紹介しますと、まず、古代はクロマニヨン人の絵で有名なラスコー洞窟です。我々が入ったのは4つの複製洞窟の一つですが、合わせて3000にも及ぶこれらの絵が何のために描かれたのか、どのようにして描かれたのかなど、想像を掻き立てられます。

中世の面影がよく残されているのは、コンクとロカマドゥールです。スペインのサンチャゴへと向かう巡礼の道を今も歩く人がいると聞きました。四国遍路などと同じく、信者以外にも何かの思いをかみしめながら辿る人もあるのでしょうか。

近代の遺産として訪ねたのはオラドール・シュル・グラヌという村です。第二次世界大戦末期に600人超のほとんどすべての村民がナチス親衛隊に虐殺されたうえ、村全体が焼き払われたところです。この事実をそのまま後世に伝えるため、隣接区域にオラドールの村が新たに建設され、もとの村は当時のまま残されています。

ツアーの締めくくりはパリです。ここにはノートルダム聖堂や凱旋門、数々の美術館など、セーヌ川と同じような歴史の大きな流れを感じることができるのは言うまでもありません。

3. イギリス

ツアーで一緒させて頂いた皆さんとパリでお別れし、ドーバー海峡をフェリーで渡り、イギリスに向かいました。十分な試験勉強をせずに受験するような気分の一人旅でありました。

イギリスで訪ねたところは、主としてイングランド南部です。ここでも、ストーン・ヘンジ、バースからオックスフォード、ロンドンに至るまで、フランスのそれと相似形のような旅となりました。いずれも私にとっては修学旅行と呼べるものでしたが、大きく異なるのは、フランスツアーは大船に乗った大名旅行と言えるものだったのに対し、一人旅は弥次喜多(?)八分、芭蕉二分、総合すれば修行にも似たところがあったことです。

4. 記録という行為

イギリス12日間、それから最後の3日間を再びフランスでという「欧州の心細い道」の行脚の思い出を記すと長くなりますので、フランス旅行の主たるテーマであった記録という人間の行為について、少しく感じたことを記します。

(記録の動機)

なぜ人間は記録に残すのでしょうか。身近な石碑がヒントになります。崇敬(先祖、先人に対する追慕・感謝の念)、追悼(天災、戦争、戦争以外の人災による犠牲者を悼む心)、祈念(平安や豊穰を願う)、顕彰(凱旋、治山・治水、政治・経済、教育・文化等の功労者を称える)、表現そのもの(思想、芸術等)一大別すればこのようなものになるか

と思います。ここで思い出されるのが、マズローの欲求の五段階説です。まず一番に伝えるべきは生存、安全に係わることでしょう。衣食足って礼節を知るとい言葉に表れているように、それらが一応満たされた次の段階で、よりよい社会生活のための教訓・指針が残されましょう。自己実現の段階に近づくほど、記録の中で表現という行為のウェイトが高くなるような気がします。

(記録の風化)

記録の仕方に水に書く、砂に書く、石に刻むと三通りがあるそうですが、例え永劫に伝えることを期して石に刻んだとしてもいずれ風化は免れません。今回の旅で改めて感じたのは、風化しないまでも時間の経過とともに隠され、忘れられることがあることです。ラスコーの壁画を最初に見つけたのは行方不明になった犬を探した少年たちであり、イギリスのマーゲイトという町にあるシェル・グロット(貝殻洞窟)を見つけたのも屋敷の庭にあった池の陥没といういずれも偶然の出来事が発見のきっかけです。ナスカの地上絵も飛行機が存在しなければ、いまだに見つかっていないかもしれません。原野先生ともお話ししたのですが、まだ埋もれたまま、忘れられたままの記録がたくさん残っているのではないのでしょうか。どこに何が眠っているか、手掛かりはありませんが、色々想像をめぐらすのも一興でしょう。

記録の風化には心理的風化もあるように思います。その代表例として、オラドルのような戦争の悲惨さを伝える記録が挙げられるでしょう。

喜怒哀楽のうち人間がもっとも強い衝動を覚えるのは怒りと悲しみでしょう。人類の歴史は戦争の歴史と言ってもいいのですから、それを伝える記録は極めて多いのですが、次のようなことが相まって、この一番伝えるべきことの記銘力がだんだんと失われるような気がします。

- ・ 時の経過とともにどのようなことも歴史上の出来事となり、例え子孫であっても当事者のその時点の切実な思いをそのまま受け継ぐわけではない。また、そこまで古いことでなくても、時は最良の癒し手という言葉もあるように、時の経過が怒りや悲しみを軽減させる。
- ・ 戦争の記録が多ければ多いほど、戦争は繰り返されるとの厳然たる事実を突きつけられ、それは平和を希求する心とともに、戦争はなくなならないという諦念に似た気持ちを醸成しかねない。

(記録の継承)

以上のように記録の継承を妨げる要因として時の経過があり、また似たような記録が多ければ多いほどその記録がいわば陳腐化する面もあるように思います。それでは記録の継承をいかにすべきでしょうか。

一つのヒントはお祭りにあるように思います。少なくとも年に二回は開催されてきた村祭りは、安寧や豊穰を先祖や自然に祈り、感謝するものでしょう。また、伊勢神宮で20年に一回は遷宮することによる宮大工の技術継承は記録の継承という点から示唆に富むところが多いと思います。卑近な例では企業や地域活動等で行われる防火訓練です。

また、記憶に新しいところでは、土砂災害を始めとする記録継承の大切さです。災害を記録する石碑等について、公民館活動などで紹介されるほか、地元メディア等による反復的発信も大切なことと思います。

～終わりに～

フランスツアーは私にとって、久しぶりの修学旅行と言ってよい旅でした。時が変われば人が変わるという言葉もありますが、変わらぬものもあるでしょう。旅はそれらをおさらいするよい機会であることや記録の継承の大切さと埋もれた記録を発見する楽

しみについて、改めて認識できたと思います。先に触れたマズローの説を再確認した際、彼が晩年に第六段階を発表したことを知りました。それは「自己超越」であり、深い洞察を得た経験や多面的な思考などがその表れとされています。マズローの説には批判も色々なされているようですが、漱石の晩年の境地である「則天去私」に通ずるところがあるのが興味深く思われます。私にとっては、これも埋もれた記録の発見の一つと言えるでしょう。

今回のフランスツアーについては、一行のお一人で中国新聞客員編集委員の富沢佐一さんの報告など、中国新聞に三度も掲載されました。折に触れ今回の旅を反芻する貴重な手立てになると思います。忘れられない旅を楽しく過ごさせて頂きました同行の皆様方、色々お世話になりました。ありがとうございました。